

[02_01]九州大学大型計算機センター広報 : 2(1)

<https://doi.org/10.15017/4843902>

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 2 (1), pp.1-56, 1969-02-26. 九州大学大型計算機センター

バージョン :

権利関係 :



利用希望者調査報告

西日本地区大型計算機利用協議会では、共同利用大型計算機センターの早期利用を実現させるための一環として大型計算機を緊急に必要とする研究課題及び研究者を調査し文部省に提出いたしました。その結果が次のようにまとまりました。

利用希望件数 総数 338件

九州大学工学部	138	九州大学工学部内訳	
理学部	35	建築	6
農学部	28	化学機械	21
医学部	10	生産機械	10
薬学部	11	造船	9
教養部	10	合成化学	6
応力研	1	鉄鋼冶金	5
生研	6	通信	10
山口大学	6	電気	2
鹿児島大学	14	機械	7
広島大学	7	電子	11
宮崎大学	8	土木	37
長崎大学	13	応用化学	14
九州産業大学	3		
有明工専	1		
福岡教育大学	2		
福岡女子大学	2		
九州工業大学	22		
熊本大学	21		

利用者身分区分

教授	17.6%
助教授	18.5
講師	8.3
助手	23.3
大学院生	29.0
その他 (不明を含む)	3.3

使用言語

FORTRAN	51.5%
ALGOL	45.8
FASP	1.7
その他	1.0

センターに対する希望

(1) 端末について

- 端末装置を設置してほしい

九大理学部，九大工学部，九大教養部，九大医学部，九大病院中央診療病棟，九州工業大学

- 端末を設置する際の負担金に関して、センターで援助してほしい。

◎端末装置の設置台数は通信制御装置（CCU）の回線容量によって決まっていますが、本センターのCCUの容量には50ポア（タイプライタ用）33回線分の余裕があります。しかしこの数は西日本地区の共同利用を考えると決して多いとはいえません。そこでセンターではこの少い回線をいかに共同利用の目的にあい、かつ有効に利用できるよう配分するかを業務委員会で検討中です。

この案によりますと、各県に少なくとも1台は設置し、その他は利用度の多少を考慮して配置を決めることになっています。

また設置の費用（タイプライタの借料、回線使用料）については予算要求をしてはいますが、現在のところ認められていませんので設置者負担になりますが、今後ともセンター側で予算措置をとれるよう努力します。

なお端末設置に関しては設置基準等が運営委員会で決定されれば、端末設置を希望される方には端末設置申請書を提出していただくこととなりますが、仮設センターの場合はアース等に問題があり、端末の設置は不可能と思われます。

(2) 穿孔・穿孔機について

- 九大外の連絡所にカード穿孔機を設置してほしい。
- カード穿孔機を各教室に1～2台設置してほしい。また巡回保守員を確保してください。
- 現在西利協では九大外のカード・パンチは引き受けてもらえませんが、大型計算機センターではパンチ・サービスを行なってください。
- オープン・パンチの時間制度をゆるくしてください。

◎カード穿孔機をセンターが設置する場合に集中して配置する方法と分散して配置する方法の2つの考え方がありますが、台数面で豊富ではない穿孔機を出来るだけ多くの利用者に効率よく使用していただくには集中方式をとらざるを得ません。従って現状では分散配置はできません。

九大外の連絡所に設置されるカード穿孔機については当然センター側で援助するたてまえで、先年より概算要求の一部に予算要求を行なっておりますが、未だ認められておりませんのでご了承ください。

カード穿孔機がない連絡所の利用者には依頼穿孔を優先的に取り扱いたいと考えていま

す。

オープンパンチについてはカード穿孔機13台、電動タイプライター4台を置く考えです。時間制限は自由台30分、予約台2時間となっていますが、利用者に公平に使用して頂きたいという考えをもっているセンターとしては、カード穿孔機が豊富でない現状ではこの制限はやむを得ない事だと思っています。ただし、どうしても長時間使用しなければならない利用者は一応センターに相談してください。

(3) プログラム・ライブラリについて

- ・プログラム・ライブラリの種類とその利用方法を周知させてほしい。
- ・プログラム・ライブラリのリストを配布してほしい。
- ・統計量の解析のライブラリを作成してほしい。

◎共同利用計算センターの一つの大きな業務として、ライブラリの収集管理があります。

この観点からセンターでは広報教育委員会でライブラリ全般についての検討を行なっています。公表の方法についてはセンターでは3段階を考え、一覧表程度のものを利用の手引きに掲載し、使用方法等かなり詳しいものをライブラリ説明表として、またソースプログラムのリストまでふくめた詳しいものをライブラリ集として作成することを考えています。

利用方法については利用の手引きおよび広報に掲載します。

ライブラリプログラムの開発計画は、広報教育委員会で審議されますが、その緊急度は利用者の方々の要求度によって決まってくると思われます。なおライブラリプログラムの開発はセンターの研究開発部でも行ないますが、それだけでは充分とは言えないので利用者の方々にも御協力をお願いすることになると思われます。

(4) 講習会について

- ・講習会はできるだけ多く開いてほしい。
- ・講習会を早期に開催してほしい。
- ・出張講習会を開催してほしい(鹿児島大学)
- ・初心者講習会を各学部の実情に応じた形で開催してほしい。
- ・プログラム指導員の研修会を開催してほしい。
- ・FASPに関する講習会を開いてほしい。
- ・端末に関する講習会を開いてほしい。
- ・JOB制御言語に関して講習会を開いてほしい。
- ・講習会の予定は出来るだけ早目に連絡してください。

◎センターでは利用者講習会を年6回、指導員講習会を年3回、指導員研修会を年1回の予定で開催します。センター開所当初においては、多小増加すると思われます。また、

九大以外の主な連絡所においても利用者講習会を開催する計画をいたしております。

講習会の内容はFORTRAN, ALGOLの基本的文法にとどまらず、オペレーティング・システム, プログラム・ライブラリ, TSS等についても開催するように検討しておりますが、当初は言語を中心に行なわれるものと思います。

講習会の予定は、広報に発表しておりますので注意してください。また連絡所に通知いたしております。

(5) その他

- ターンアラウンド・タイムを短かくしてほしい。
- FORTRAN, ALGOLその他との翻訳の問題を研究してほしい。
- ONLINE方式を検討してほしい。
- 磁気テープに記録したデータの統計的処理を行なう為のシステムを備えてほしい。

◎ターンアラウンド・タイムは利用者の方々の最も関心のある点ですが、これはシステムの能力、ソフトウェアの整備状況、運営方式、人手等の問題が関係してくるのでセンターではターンアラウンド・タイムがなるべく短くなるような方向でこれらの問題に対処しています。しかし仮設の場合には輸送の時間などもあり最低3時間はかかることになりそうです。

新しいシステムの開発や、ジョブの制限をゆるめることは利用者の要求度とセンターのシステムの整備状況によって決まってくるものと思われます。センターではできるだけ多くの人々に満足していただけるよう努力はいたしますが、人員の関係等でどうしても不可能な場合もあると思われます。